

「働き方改革通信：Smile」は、「先生の Happy が子どもの笑顔をつくる」を取組姿勢とした「横浜市立学校 教職員の働き方改革プラン」の進捗（達成目標の現状等）や各学校での取組を共有し、更なる取組の推進・充実につなげるために発行しています。

**Topic**

年に一度の共有

①-1

## H30「健康リスク・負担感指数」の状況

戦略4-(1)-② P.35

「横浜市立学校 教職員の働き方改革プラン」では4つの達成目標を掲げました。その1つが、「横浜市教職員ストレスチェック」から読み取る「健康リスク・負担感指数」です。今年度のストレスチェックの結果から明らかになったことをお伝えします。

### 読取① 昨年度と比べてどう？

## 変化なし

		H27	H28	H29	H30
職場の リスク	総合健康リスク	92	97	98	99
	量・コントロール (健康リスク・負担感指数)	107	109	109	109
	周囲の支援	86	89	90	91
高ストレス者割合		12.2%	15.9%	16.4%	14.4%

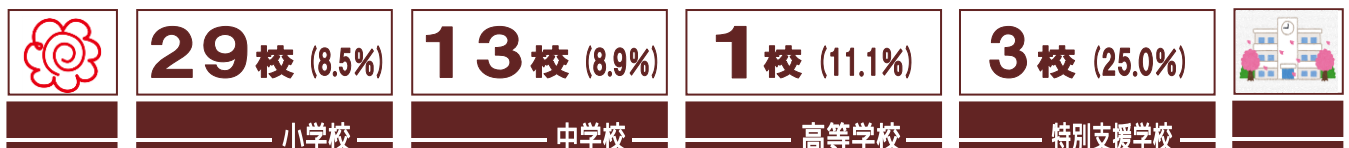
「教職員の働き方改革プラン」の達成目標である「健康リスク・負担感指数（ストレスチェックでは“量・コントロール”）」は、目標とする“100（全国平均）未満”には及ばず、昨年度と同じ数値でした。

H29 **109** ⇒ H30 **109**



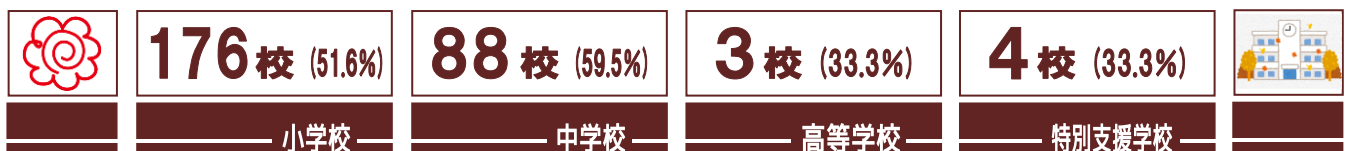
※「量・コントロール」は、「仕事の量的負担」と「仕事のコントロール」をクロス集計した指数。  
 ※「教職員の働き方改革プラン」では「量・コントロール」を「健康リスク・負担感指数」として表しています。  
 ※「総合健康リスク」「量・コントロール」「周囲の支援」ともに、全国平均を100とし、数値が高いほどストレス度合いが高くなります。

### 読取② 全国平均100より良かったのは？ **46校（9.0%）**



達成目標である「健康リスク・負担感指数」が、“100（全国平均）未満”に達した学校は、全体で46校（9.0%）しかありませんでした。※義務教育学校（前期課程・後期課程）と高等学校併置校を合わせ513校を母数に計算

### 読取③ 昨年度より改善したのは？ **271校（52.9%）**



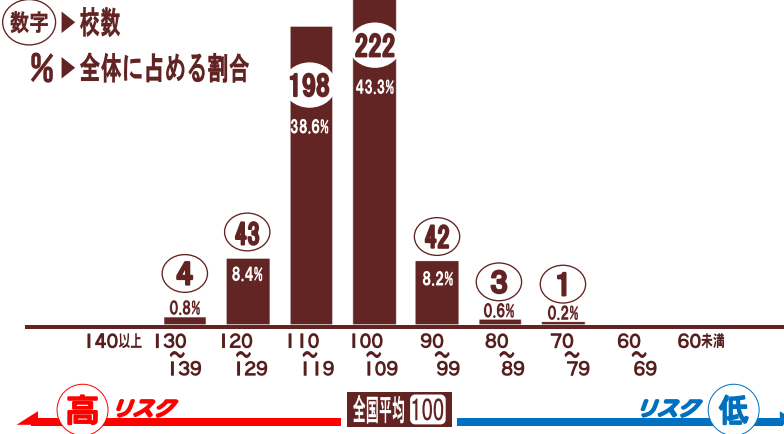
「健康リスク・負担感指数」が昨年度より改善した学校が271校（52.9%）にのぼり、中には、10ポイント以上改善した学校が56校（10.9%）もあります。一方、“昨年度と変化なし”の学校は31校（6.1%）ですので、逆に捉えると、210校（41.0%）の学校は、仕事の量的負担の増加や仕事のコントロール度合いが悪化したことも事実です。※今年度開校したみなとみらい本町小学校を除く512校を母数に計算

「横浜市教職員ストレスチェック」は、平成27年度から全教職員に対して実施しています。全体では、まだまだ厳しい数値とはなっていますが、確実に数値を上げている学校もあります。次号以降で、その学校の取組を紹介してみたいと思います。また、ご自身のストレスチェックの結果を見て、日頃の働き方や同僚性のあり方等を考えるきっかけとしていただければと思います。

# 参考資料

## ～ストレスチェック 度数分布～

### 量・コントロール



### 「量・コントロール」とは…

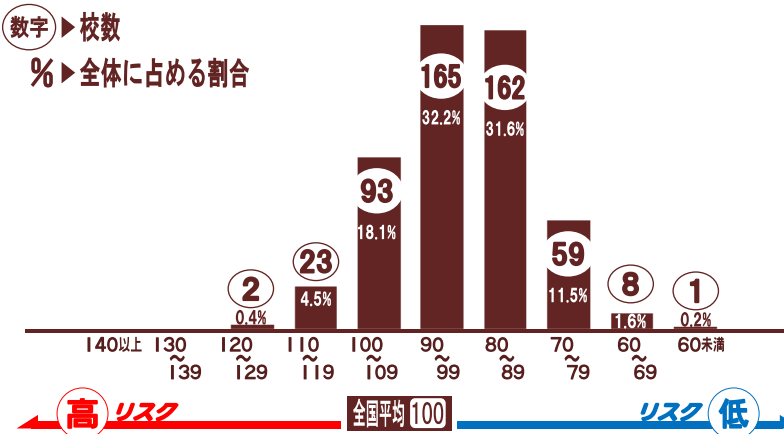
職場の仕事量と仕事のコントロールの特徴を判定し、「働き方改革プラン」の達成目標(『全国平均=100』未満)としています。

接客業など対人対応のある業種は、特にコントロールの数値が悪くなる(リスクが高くなる)傾向にあると言われています。計画的な業務の遂行、適切な情報共有を推進し、好スコアにつなげている学校もあります。

### 横浜市の平均は？

	H27	H28	H29	H30
量・コントロール	107	109	109	109

### 周囲の支援



### 「周囲の支援」とは…

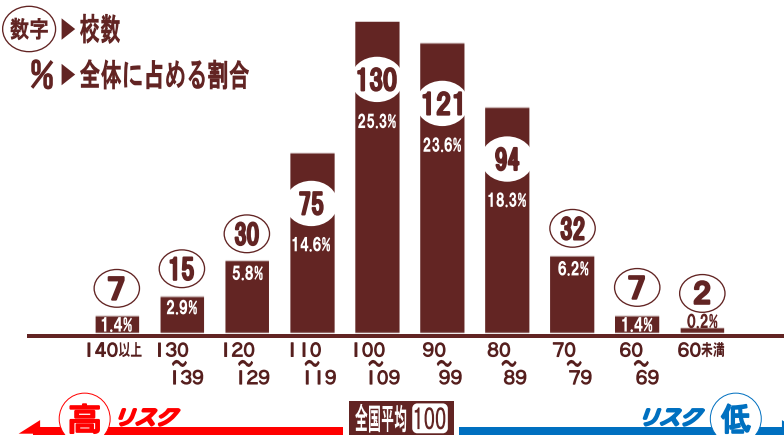
職場における上司の支援および同僚の支援の特徴を判定しています。

メンターチームでの取組や気軽に相談できるカフェコーナーの設置、そして教科分担任の推進による情報共有の活性化等、チームとして物事にあたり、同僚性を高め、リスクを低下させている学校が増えてきています。

### 横浜市の平均は？

	H27	H28	H29	H30
周囲の支援	86	89	90	91

### 総合健康リスク



### 「総合健康リスク」とは…

「仕事の量的負担・仕事のコントロール」と「周囲の支援」から読み取った総合的な数値となります。

健康リスクを低下させるためには、職場環境や業務改善等を組織的に進めることが大切です。

左のグラフも参考にご自身の学校のあり方を見つめ直してみてください。

### 横浜市の平均は？

	H27	H28	H29	H30
総合健康リスク	92	97	98	99

夏季休業中の学校閉庁に加え、今年度より、冬季休業中の「学校閉庁期間」を設定しました。下表のように学校閉庁日の設定が進みます。(冬季学校閉庁期間=12/27,28 1/4,5)

冬期学校閉庁日 設定状況 ~1日以上設定校 (11月末現在) ~

冬期学校閉庁日「設定校」「未設定校」校長先生の声

校種	設定校数	割合 (%)
小学校	277	81.5
中学校	79	54.5
義務教育学校	2	100
特別支援学校	8	66.7
合計	366	73.3

設定校

ここ数年間、夏の学校閉庁を設定してきたこともあり、保護者や地域の方の理解が進んでいます。また、「働き方改革プラン」にある年休10日取得にも効果的だと考えています。

未設定校

やはり地域との関係や進路に係る業務もあり、実施には踏み切れませんでした。また、カレンダー上の課題(1/5が土曜日)もありました。設定校の様子を聞きながら、来年度のあり方を考えていきます。



働き方改革の推進



地域連携の推進

「どちらも大切」「地域との関係を薄くすることはできない」「見つめ直す視点はあるの？」

多くの学校では、朝の見守りや読書ボランティアなどに地域の方々のお力添えをいただきながら、学校教育の充実につなげています。一方で、学校への協力を得るためには地域への貢献も欠かせないところであり、校長先生の中には、働き方改革と地域連携とのバランスをどうとるべきか考えている方もおられると思います。

瀬谷区三ツ境小学校では、「働き方改革」を入り口として町内会長さん達と課題を共有し、相互理解の上で新たな関係を構築し始めました。その取組の一端を紹介します。

## Action ① “働き方改革を進めたい” ~校長の思いと連合町内会長の受け止め~

【平成29年12月】



教職員の勤務実態を説明 **学校長**

「直近3か月で時間外勤務がこれだけあります…。」「子どもの具合が悪いときに、実家(九州)の母親に来てもらっている教職員もいます。」 など



学校への理解と寄り添い **連合町内会長**

「こんなに残業時間が長いとは思わなかった…。」「先生方の地域行事への参加も見直したいね。」「地域の力が必要なら言ってほしい。協力する！」

## Action ② “大切にしたい地域行事は何？” ~オール三ツ境での見直し~

【平成30年1~2月】

地域行事	H29	H30
連合自治会定例会	毎月	4回
地域防災拠点運営委員会	7回	4回
地域行事(グラウンドゴルフ・かるたとり等)	6回	4回
連合運動会	1日参加	半日参加

※上記以外にも3連休の2日目に開催していたものを、連休初日に開催 などの変更も行いました。



見直し案を協議 **連合町内会長**

**地域防災拠点運営委員長**

「連合自治会や地域防災の会議への参加は減らしてもよいのでは？」  
「地域独自の行事は地域にまかせて！」  
「社会を明るくする運動は協力してやりましょう」

## Action ③ “教育課程に地域の力を！” ~学校と地域との新たなつながりを求めて~

【平成30年4月】



課題解決に向け 地域へ要請 **学校長**

「地域の方と共に子どもを育てていきたい。」「授業の中で地域の方とつながってほしい。」「幼保小のつながりも大切にしたい。」「そうすれば、地域も学校も、もっと元気になる！」

[新設] 1年生への学習サポート・樹木ボランティア **地域の方々(20名)**



働き方改革の課題を解決しながら地域との関わりを見つめ直し、その「つながり」の中で、子どもたちや教職員、そして地域の方の安心や、新たな価値・融合を生み出す三ツ境小学校の取組は示唆に富みます。



## (1) 「教職員の働き方改革プラン」達成目標との比較・推移 (平成30年12月6日時点)

項目	目標	平成30年11月実績			
		平均	小学校	中学校	特別支援学校
時間外勤務月 80 時間超の教職員の割合	0%	19.0% 😊 前月比 -3.4	14.2% 😊 前月比 -1.5	32.7% 😊 前月比 -7.9	1.9% 😞 前月比 +0.1
19 時までに退勤する教職員の割合	70%以上	67.7% 😊 前月比 +1.4	65.3% 😊 前月比 +1.4	68.4% 😊 前月比 +2.0	86.9% 😞 前月比 -0.2

※退勤管理を導入した小・中・義務・特支の教員について、ICカード等による記録から機械的に算出した集計結果。(以下、同様)

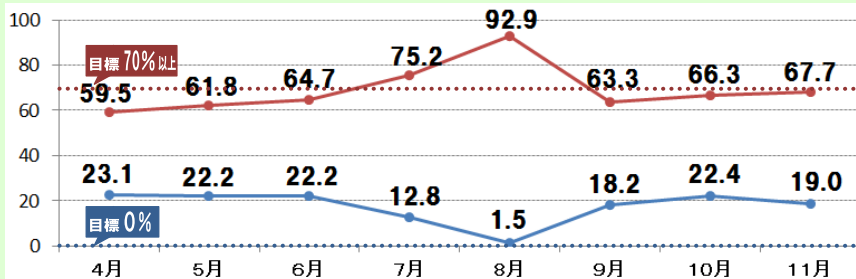


中学校では、夏季休業期間を除いた月において「80 時間超の割合」「19 時までに退勤の割合」いずれも最も良い数字となりました。完全下校時刻の早まりや定期テスト前の部活動休止等の影響もありそうです。

### 達成目標に対する現状値

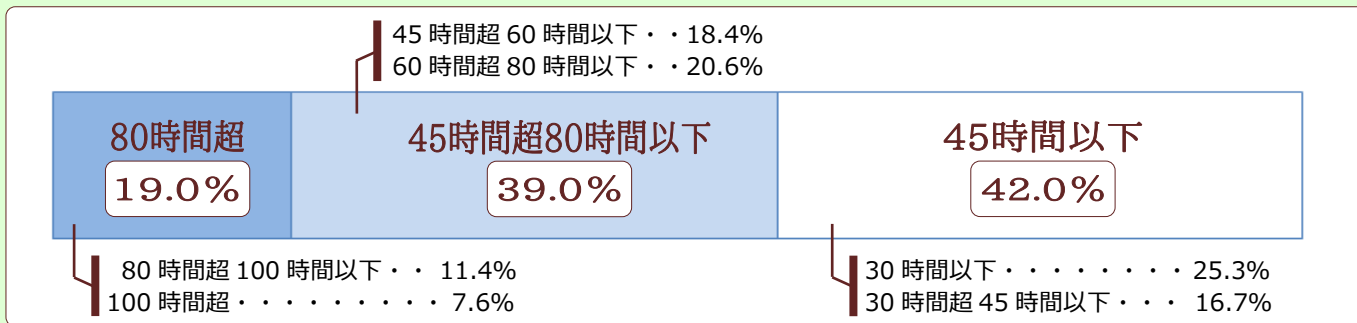
**赤線** 19 時までに退勤する教職員の割合

**青線** 時間外勤務月 80 時間超の教職員の割合



## (2) 時間外勤務 (平成30年11月) の詳細

### ◇時間外勤務の割合 (平均)



### ◇時間外勤務の割合 (校種別割合)

月あたり時間外勤務	100時間超	80時間超 100時間以下	小計 (80時間超)	60時間超 80時間以下	45時間超 60時間以下	小計 (45時間以下)	30時間超 45時間以下	30時間以下
小学校	3.3%	10.9%	14.2%	23.5%	21.3%	41.0%	17.6%	23.5%
中学校	18.0%	14.7%	32.7%	17.8%	13.9%	35.6%	13.8%	21.8%
特別支援学校	0.4%	1.5%	1.9%	6.0%	10.8%	81.4%	22.0%	59.3%
平均	7.6%	11.4%	19.0%	20.6%	18.4%	42.0%	16.7%	25.3%



この「時間外勤務等の実績」も今回で8回目となります。校種ごとの特徴や繁閑の時期なども見えてきました。今後は、学校規模や地域性との関連や、今回取り上げた「ストレスチェック」との関連などの分析を進めて、次なる施策へつなげていきます。

※本資料の数値については、項目ごとに四捨五入により端数処理を行っているため、合計と内訳の和とが一致しない場合があります。